



地域の人々が
大切に守ってきた

中世の社殿

▲思子淵神社：中央が本殿、左端は蔵王権現社

昨年、刊行された朽木村史の編さん過程の調査において、中世に建立された神社建築6棟が確認されました。

針畑川流域の小川の集落にある思子淵神社には、覆屋内に5棟の小社殿が並べて納められています。このうち中央の本殿と左端の蔵王権現社（写真）、右端の熊野社が中世の建築で、蔵王権現社からは、応安4年（1371）建立を示す板札が発見され、建立年代が確定するとともに、他の2棟も様式・技法の上からは大きな時期差は感じられずほぼ同時期（14世紀後期）の建立と判断されました。県内でも屈指の古い社殿であり、屋根と熊野社の庇柱を除いてほぼすべて建立当初の材料が残されている、極めて貴重な建物であるということが3棟が平成23年3月に滋賀県指定有形文化財として指定されました。

針畑川の上流、中牧の集落にある大宮神社は、規模の大きな三間社流造の本殿とその左右に常神社・八幡社があります。本殿は、江戸時代に幾度かの修理で部材が取り替えられていますが、中世に建てられた古い部材の表面を削り直すこと、古い部材の模様などを忠実に模すこと、解体せず部材の取替を行うこと、この3つの技法を駆使して巧

編集者のつぶやき

3月11日にマグニチュード9の超巨大地震が東日本を襲いました。地震を発端に、大津波が町を飲み込み、原発が爆発するなど、未曾有の大惨事となっています。テレビに映し出される被災地の悲惨な状況にいたたまれない思いになります。高島市では、被災者の方々を少しでも支援するため義援金の募金箱を窓口を設置しています。皆様の温かいご支援・ご協力をお願いします。（広報担当S）

妙な改造が繰り返されています。これらは朽木の多くの寺社建築に見られる特徴で、この地域の建築文化の継承のあり方をよく示しています。なによりも、組物から上はおおむね中世の部材をよく遺存しているという貴重な価値を有する建物です。八幡社・常神社は、覆屋の中にあり、ほぼ同形式の一間社流造で、彫刻や絵様も一切ない極めて簡素な建物ですが中世の技法で作られています。いずれも室町時代後期（16世紀前期）のもので朽木谷の伝統に従って、一切建て替えてしまうことはせず、古い部材を極力残し、古い技法や意匠を踏襲することで、建物を継承してきたことが知られる貴重な建物として3棟が平成22年6月に高島市指定有形文化財として指定されています。（文化財課）



麗しの

嶽山

高島市の南、ひととき美しい嶽山が、四季の移ろい癒しの空間を与えてくれています。嶽山の里山に位置する音羽集落内には近江西国七番札所 白蓮山長谷寺があります。ご本尊は秘仏の十一面観音立像、両脇侍には龍王立像・雨宝童子がおられます。

奈良時代、三尾山（嶽山）には

約30メートルの楠がありました。この木は常に光を放ち白蓮華（白い蓮の花）のようでした。ある時、野火に焼かれた楠が琵琶湖上に流れ出て、大津浦に漂っていたところ、養老4年（720年）大和の国、泊瀬山に住んでいた徳道上人がこの楠の霊木を用いて、十一面観音菩薩像を造るよう発願し神亀4年（727年）に完成しました。この霊木からは、讃岐国志度寺のご本尊も造られました。また、本木（木の根元の部分）からは近江国長谷寺のご本尊が造られたと伝えられ、各寺に本木伝承が今も脈々と伝わっています。

観音菩薩信仰は、我々民衆の苦行を救済するために現世に現れた仏として広く信仰を集めています。

近江国長谷寺信仰は、嶽山の千日詣として毎年7月9日に行われています。その昔、嶽の観音は農耕の馬や牛の守護として信仰を集め、朽木の人人々は、明け方から家を出て徒歩で入部谷を越え、武曾集落に出てそこから拝戸、音羽へと向かい、嶽山の観音堂へと歩みを進めたそうです。まさに民衆信

仰の道そのものと言えるような光景です。

音羽集落東手の小田川から嶽山観音堂を目指して上り始めると、丁石（道標）があり、参道の各所には神楽石・亀ヶ岩・賽の河原（冥土の三途の河原）・白坂・弁慶の切石などの奇岩類が散りばめられ休息のひとときを提供しています。中腹には目指す観音堂が設けられ、参詣者はここで朝早くからご祈禱を受けました。観音堂から更に尾根を歩き続けると、嶽山の頂上に到達します。そこには石窟（いわや）が造られてその中に立派な石造の舟形光背（仏像の背後につける光明をあらわすもの）に



長谷寺のご本尊である十一面観音立像が見事に丸彫られています。山頂からは高島平野や、遠く江若国境の山並みまで見渡せる位置にあります。信仰の山にふさわしいたずまいです。

平成5年（1993年）、嶽山の中腹にあった観音堂は、里山の大炊神社東側にうつされ、新たに観音堂・薬師堂・太子堂が一つのお堂に納められました。

琵琶湖畔の景勝地、萩の浜から望む嶽山の形は、美しい円錐形をしており、見る者をいつしか悠久の時に誘いそうです。私たちは、このような素晴らしい景観の中で生活していることの喜びを、実感することが大切と考えます。

（資料館）

編集者のつぶやき

東日本の被災地への支援物資にたくさんのご協力をいただきありがとうございます。思いのこもった大切な支援物資は、4月7日（木）に、高島商人進出の地として交流のある岩手県宮古市と岩手県へ、当市職員が直接お届けしました。現地の方は喜ばれたと思います。（広報担当S）



驚きの高島シシ垣、
今昔物語

高島市内には、江戸時代を中心に築かれた、農作物を猪・鹿などから守る「シシ垣」(石垣・土垣など)を今でも見ることができず。この歴史散歩のシリーズでも、以前に「鵜川のシシ垣」を紹介しましたが、その記事を見た大学生から、マキノ町にもシシ垣があり、卒業論文に取り上げてみたいとの、申し出がありました。

シシ垣は、山から現れる猪・鹿などが耕作地の農作物を荒らすのを防ぐために造られた、垣や柵の構築物がそもその始まりである

と考えます。構築物の中心は前述のように江戸時代の石垣・土垣・木柵などで、今では遺構として石垣や土塁を目にすることができず。

シシ垣がなぜ江戸時代に多く造られたかについては、江戸時代の幕藩体制下で各地域の新田開発が行われていく過程において、獣類の生活領域まで人間が入ることで、猪や鹿などが秋の実りの頃里に降りて、農作物を食荒らすことが、西日本を中心に多く見られたためと考えます。

高島市内では、現在鵜川から伊黒、新旭町木津から日爪、そしてマキノ町西浜のシシ垣が確認されていますが、他にもシシ垣と考えられる垣を見かけることがあります。

マキノ資料館では次のとおり、高島市内のシシ垣をパネルで展示紹介し、併せてマキノ町西浜のシシ垣の現地見学会および高橋春成さんによる講演会を開催します。ぜひ、ご来館・ご参加ください。

シシ垣企画展示

展示「高島 シシ垣今昔物語」

▼期 間 9月12日(水)
～10月21日(日)

※月・火・祭日は休館

▼場 所 マキノ資料館

関連イベント

現地見学会～マキノ町西浜～

▼日 時 9月22日(土)
10時～12時頃

▼場 所 JRマキノ駅前集合
(9時50分)

▼定 員 30人

▼参加費 無料

※お申し込みは9月15日(土)までにマキノ資料館まで(電話可)。

講演会「シシ垣の保存と活用について」

▼日 時 9月22日(土)
13時30分～15時

▼場 所 マキノ公民館

▼講 師 高橋 春成氏
(奈良大学文学部地理学
教室教授・シシ垣ネット
ワーク代表)

▼参加費 無料

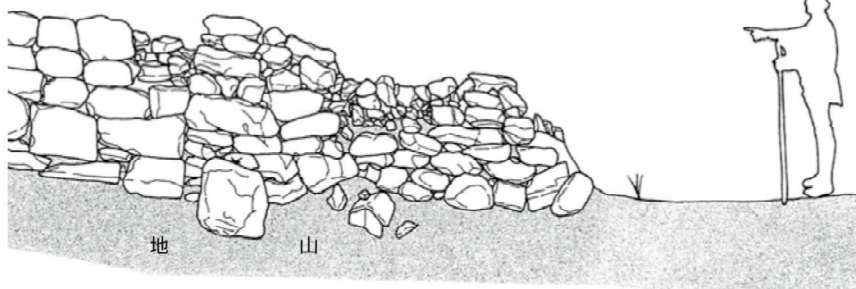
※当日会場にて受付

☎ マキノ資料館

☎ (27) 1484

編集者のつぶやき

先日、復旧支援のため、8月14日未明の豪雨被害にあった大津市石山外畑町へ行ってきました。現地は、土砂崩れの影響で木が倒れ、道路や水路、民家に土砂が流れ大変ひどい状況。同じ滋賀県でこのような災害が起こったことに、豪雨災害は身近なものだと改めて感じました。▼今号の特集の一つは「大雨・台風に備える」です。自然災害の発生を防ぐことは難しいですが、被害を少しでも軽減するため、事前に備えをしましょう。(広報担当S)



鵜川シシ垣実測図(石垣)



夏の思い出ウオーク 近江高島から北小松

7月20日、「探訪『近江水の宝』湖西明神崎をゆく―白鬚神社―」を滋賀県教育委員会と共催で高島町観光ボランティア協会の協力のものと実施しました。約60人の参加があり、JR近江高島駅からJR北小松駅までの間を歩きながら文化財を探訪しました。

守台跡と推定二の丸跡・三の丸跡を残し、水城であった面影を一部留めています。まさに、古城そのものの佇まいです。
次に、乙女ヶ池周辺の万葉歌碑二基、風景と共に北陸道を観察しました。

「大船の香取の海に 碇おろし
如何なる人か 物思はざらむ」
巻十一―2436

「何処にか 舟乗りしけむ 高島の
香取の浦ゆ 漕ぎ出来る船」
巻七―1172

そして古道の傍らのくさ地蔵と
磨崖仏を拝んで、蓮如上人ゆかり



大溝城天守台跡



乙女ヶ池周辺の万葉歌碑



白鬚神社（本殿は国の重要文化財に指定）

の最勝寺に立ち寄りしました。

最勝寺をあとに、五世紀代の人骨が出土した打下古墳に立ち湖北の湖を遠望して、鵜川四十八体石仏を経て、目指す白鬚神社へと向かいました。

白鬚神社は、古い由緒を持ち総社としての風格があります。現在の本殿は豊臣秀吉の遺命により、秀頼が慶長8年（1603）に再建したもので、境内には他にも多くの文化財が所在します。

白鬚神社から南に進んで、鵜川の棚田に感心しながら、西近江路の難所のひとつであった鑑岩を過ぎて、霊験あらたかな岩除地蔵さんで一休みさせていただき、旧江



岩除地蔵

若鉄道跡を歩み、JR北小松駅に到着しました。

この探訪コースは、比良山と琵琶湖が織り成す風光明媚な、お薦めコースです。この秋の9月5・6日の白鬚神社秋季大祭の行事にあわせて探訪されてはいかがでしょうか。

高島歴史民俗資料館
☎(36) 1553



編集感

8月のはじめ、今津町の農家 成宮さんから、通常の

2倍の大きさのイチジクが実ったとの情報をいただきました。高島市は、昨年の大津市場への出荷が県産の約65%を占める県内有数のイチジクの産地です。明るい話題で勢いにのってほしいですね。▼今号の特集は、介護について。認知症の1人歩きの調査結果等を掲載しています。敬老の日を前に認知症や介護の理解を深めてみてはいかがでしょうか。 (S)



広報たかしま

平成25年

9

月号
No.164

発行▼高島市
T:0740-110001
滋賀県高島市新旭町北畑のふ番地

編集▼政策部企画広報課

☎0740(25) 8000(代)

http://www.city.takashima.shiga.jp
mailto:info@city.takashima.shiga.jp



—城と城下—

大溝を歩く



JR湖西線近江高島駅を降りると、そこは、今から約400年前にあった大溝城や城下町の名残を感じながら散歩することができるとなっています。

大溝城跡(①)は駅の東側に所在し、天正6年(1578)に織田信長の甥である信澄によって築城されました。縄張り(設計)は、知将の明智光秀とされています。天正10年、信長が光秀に攻められ本能寺で自害すると、光秀の娘婿であった城主の信澄は、織田信孝と丹羽長秀に大坂城で襲撃され自害。

信澄が去った後、大溝城主は代々替わり、天正13年(1585)には京極高次が城主として入り、浅井三姉妹の次女お初さんと新婚時代を過ごしたと言われています。この頃のこと、水上勉著作の『湖笛』に取り上げられています。これ以後、大溝城は廃城され、

その部材については、甲賀市の水口岡山城に移されたといわれています。

次に、駅から東の方へ移動すると、高島市民病院の駐車場の横に新しく屋根瓦を葺き替えた分都神社(②)が鎮座しています。同社の周辺が大溝藩の藩邸の中心部です。ここから西方にかけて家臣団の屋敷地が藩主の菩提寺である圓光禅寺(③)まで広がっていました。こうした陣屋の北町通りに面

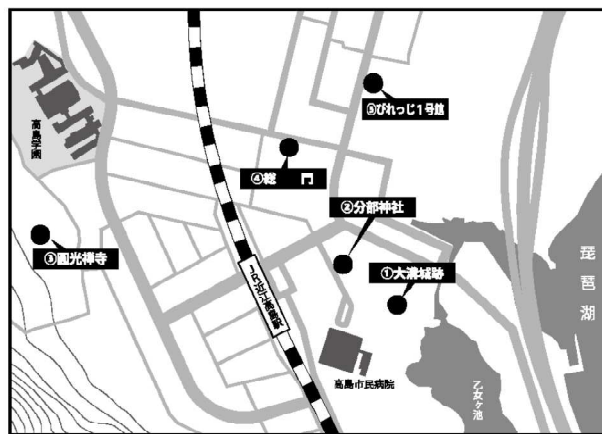
して総門(④)が設けられ、今も現存する藩政時代の建物として保存されています。

総門から北側と東側には町人町が区画されていました。大溝湊周辺には、六軒町・長刀町・船入町・江戸屋町などが町名として残っています。北側の町人町については、本町・中町・西町・伊勢町・石垣町および新町があります。町名の由来は町ごとに設置されている観光道標に記されています。本町の通りには、古民家を利用した再生民家が軒を連ね、びれっじ1号館(⑤)から8号館まで誕生し、各館の特色を活かした活動を展開しています。

大溝城跡や大溝城下の散策には、びれっじ1号館に「たかしま

まちづくりセンター」が開設されていますので、そこで情報収集し城下歩きをするのが、お勧めです。

高島歴史民俗資料館
☎(36) 15553



催しのお知らせ

歴史勉強会

「大溝城跡周辺散策・大溝城を語る」
日 時 10月13日(日) 小雨決行
14時～16時
(集合) JR近江高島駅構内
場 所 城下・びれっじ1号館
参加費 500円 ※申込必要
☎・申 たかしままちづくりセンター
☎(36) 2011
月曜日休館

企画展

「水口岡山城
—四百年の眠りからいま目覚める—」
期 間 10月12日(土)
～11月27日(水)
時 間 10時～17時
木・金曜日休館
場 所 甲賀市水口歴史民俗資料館
入館料 150円(小中学生80円)
☎水口歴史民俗資料館
☎0748(62) 7141

編集感

▼今号の特集では、先月新聞に大きく報道され話題となった上御殿遺跡から出土した短剣鍔型のことを取り上げています。歴史には疎い私ですが、地元高島市から、大発見があったということでうれしい限りです。今後も新たな発見があるかもしれないと思うとワクワクしますね。▼表紙は、工事中の海老坂トンネルに朽木中学生が見学している様子。なかなか入れるような場所ではなく、貴重な経験をさせていただきました。完成が待ち遠しいです。(S)



広報たかしま

平成25年

10

月号
No.165

発行 高島市 編集 政策部企画広報課
〒520-1001 滋賀県高島市新旭町北畑のふ番地

☎0740(25) 8000(代)
http://www.city.takashima.shiga.jp
mailto:info@city.takashima.shiga.jp



白鬚神社の湖中大鳥居

市内から国道161号を通過して南へ向かうと、大津市に入る少し前の左手に広がる琵琶湖中に、ひととき目を引く、有名な白鬚神社の朱塗りの大鳥居を見ることができま

す。現在の鳥居は、昭和56年（1981）に、琵琶湖総合開発の補償事業で、国道端から58・2メートル沖に建立されたものです。高さが湖面から12メートル、柱幅は7・8メートルという巨大なもので、湖中にそびえ立つ鳥居の背後に、琵琶湖最大の島である沖ノ島がうっすらと浮かぶ美しい光景は、高島市を代表する景観ポイントの一つです。特に、琵琶湖側から太陽が昇る日の出の時間帯や、湖面と鳥居が青空に映える季節には、たくさんカメラマンが湖畔に並び姿をご覧になることも多いかもしれません。

また、水面に浮かぶ鳥居の姿は、広島県廿日市市宮島町の厳島神社を連想させ、「近畿の厳島」と称されることもあるようです。



建設中の大鳥居（昭和12年）

現在の鳥居が建立される以前に湖中に建っていた鳥居は、昭和12年（1937）に小西久兵衛という人物の寄進によって建てられたコンクリート造りの鳥居です。写真（左）の建設中の鳥居がそれで、江若鉄道が湖西を走っていた時代は、この鳥居と社殿の間に線路が通っていて、湖岸を走る江若鉄道車両と湖中の鳥居を撮影した写真等も残されています。

寄進をした小西久兵衛という人物は、大阪道修町の葉問屋で、現在も神社境内には昭和12年10月の

日付が入った「鳥居復興碑」が建てられています。

その碑文によると、白鬚神社の鳥居は古くから湖水の増減によって見え隠れしていたと伝えられており、それを知った小西久兵衛がその伝承を現実のものとするため、鳥居の復興を思い立ち、単身で寄進を行ったということです。

神社に伝わる縁起によると、鳥居は室町時代後期、天下の変災（大規模な災害）の前兆として社前の湖中に突然姿を現したとされ、他の記録からも、江戸時代中期には白鬚神社の鳥居が既に湖中に建っていたことをうかがうことができますが、最初の正確な建立年代は分かっています。

白鬚神社は、祭神を猿田彦命とする古社で、縁起によれば、垂仁天皇25年に倭姫命により社殿が造営され、奈良時代には天皇家からの崇敬をうけ「比良明神」の号を賜ったとされています。神社の名称となっている白鬚明神は、延命長寿の神様として知られ、現在

も全国から多くの参拝者が集まります。

なお、現在の社殿は、豊臣秀吉の遺命により、息子の秀頼が家臣の片桐且元を奉行として慶長8年（1603）に造営したもので、これは桃山時代の神社建築を伝える貴重な建造物として、昭和13年（1938）には、国の重要文化財に指定されました。

国文化財課 ☎（32）4467

新年明けましておめでとうございます。今年もどうぞよろしくお願いします。

12月の全国発酵食品サミットはおおいに盛り上がり、シンポジウムには立ち見が出るほどでした。発酵食品は、生きた菌を食べるので、健康にもよいし美容にもよいのだとか。特に発見があったのは、酒の飲みすぎは体によくないが、適量なら、むしろ健康によいという話。年始には飲む機会が多くなりますが、適量と言い聞かせ？おいしく味わいたいと思います。（S）

編集 雑感

広報たかしま

平成26年

1

月号
No.168

発行 高島市
編集 政策部企画広報課
〒500-1501 滋賀県高島市新旭町北畑のろの番地

0740(25) 8000代
http://www.city.takashima.shiga.jp
mailto:info@city.takashima.shiga.jp

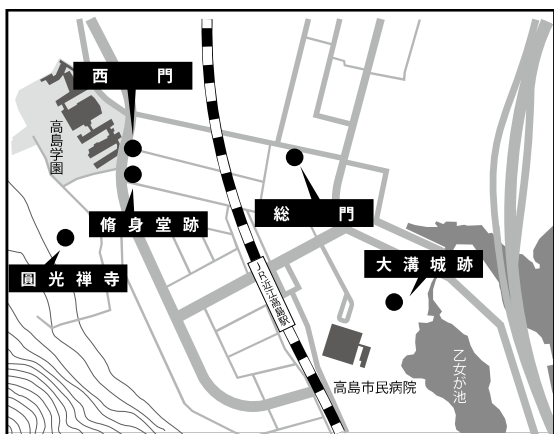
大溝を歩く 総門



総門

JR近江高島駅から北へ約400mの場所に総門と呼ばれる大溝陣屋関連の建造物が所在しています。

元和5年（1619年）に伊勢上野（現三重県津市）より分部光信が藩主として大溝に入封して以



降、大溝藩は、廃藩置県まで約250年続きます。分部光信は、約2万石を領有し織田信澄が築いた大溝城を取り入れるかたちで※1陣屋を構え、その西に武家屋敷地を、北には職人町を設けて城下を整備したとされています。

現在、「郭内^{かくない}」と呼ばれているところは、かつての大溝藩の武家屋敷地で周囲に堀を巡らせ総門・西門・南門などいくつかの門が設けられました。

総門は、「郭内」の北面に設けられた門であり、その位置および名称から武家屋敷地の出入りに使用されていた最も重要な門（正門）と考えられています。

現在の総門を調査した時に発見された棟札には、宝暦5年（1755年）に修理されたことが記されていました。

また、※2小屋束^{こやつか}にみられるように明らかな転用材が混在していることから、前身建物の部材を再利用していたとみられます。

調査の結果、総門は、桁行約17・8m、梁間約3・9mの長屋門で、屋根は入母屋造の棧瓦葺、

中央部に扉口があったと考えられます。かつての外観が想像できるような扉は現存していませんが、屋根には大溝藩主分部家の家紋である「丸の内に三つ引き」の瓦が葺かれています。

総門の復原図を見ると大溝藩武家屋敷地の正門として、壮大な建造物であったことがうかがえます。

『大溝郭内の昔話』（高島町歴史民俗叢書第一輯）によると、総門

の左右には高い板塀が廻らされており、大門の西側には※3耳門^{じもん}があったとされています。ここから当時の壮大な総門の姿を想像することができます。

総門は、現存する大溝藩政時代の重要な建物であり、市指定文化財に指定され保存されています。



総門復原図（『高島町旧大溝藩総門調査報告書』）

ます。

総門や郭内（武家屋敷）、町屋など、大溝陣屋周辺は大溝の文化的景観を構成する重要な要素です。



総門屋根瓦

※1 陣屋：藩庁が置かれた屋敷で、城を持たない大名が陣屋を構えたといわれています。

※2 小屋束：棟木等の下に立つ垂直材

※3 耳門：くぐり戸の意味

問文化財課

☎(32) 4467

編集感

今回、各方面の皆さまに大変なご迷惑をおかけし、心よりお詫び申し上げます。今回の事案を自らに置き換えて考えると「何のためにその仕事を行うのか」という根本的な認識が欠落していたのではないかと思います。現場では、手段であるはずの事業や事務が目的化しがちです。「数値を出すため」ではなく、「市民の生活衛生や環境を守るため」にその数値が必要なのだと理解できれば、自ずと仕事の意義や意味合い、業務間の関係が見えてきます。今後、我々職員は一人一人となって再発防止を行うとともに、一日も早く、皆さまの信頼を回復できるよう全力を傾注していきたいと思ひます。（Y）



全国初

市内3例目!!

「大溝の水辺景観」

国の重要文化的景観に

11月21日（金）、国の文化審議会は、高島市の「大溝の水辺景観」を国の重要文化的景観に選定するよう、文部科学大臣に答申しました。これにより、市内で3か所目となる重要文化的景観が誕生することになりました。

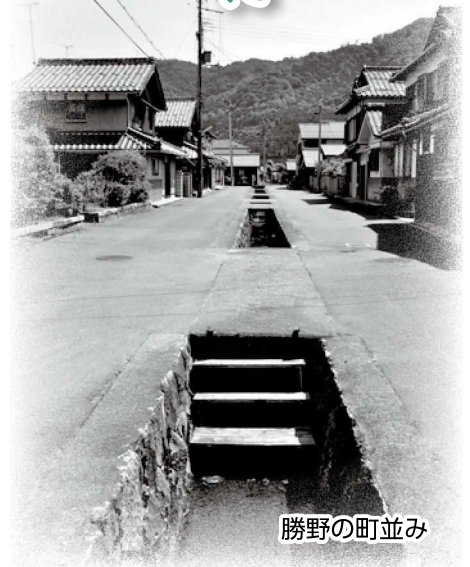
重要文化的景観は、平成17年の文化財保護法の改正により新しく定められた文化財の種類の一つです。これは、地域の自然や人々の生活が長年の間に作り上げ、さらに現在もそこで人々が生活を続けている良好な風景全体を文化財として残していくという考え方のものです。もちろん、その風景は人々の生活習慣の変化等により、変わっていくことも想定されています。ただ、現状のまま形を変えずに保存していくこれまでの文化財とは違い、これからの人々の生活やその地域の活性化に役立つような保存と活用を目指していくことが文化的景観の保護といえます。

今回選定されることになった

「大溝の水辺景観」は、JR近江高島駅の南東に広がる打下集落と乙女ヶ池、そして戦国時代の水城跡として貴重な石垣を残す大溝城跡とその北西に広がる勝野の町並み一帯を範囲としています。

打下集落と乙女ヶ池は、かつては琵琶湖周辺に点在していた内湖とそれに沿うように形成された砂州上の集落で、昔からその形態を変えずに残っています。さらに打下集落に暮らす人々の生活は、現在も琵琶湖や内湖と深い関わりをもっています。

また、戦国時代末期に織田信長政権下で築城された大溝城跡は、内湖を濠に取り込んだ典型的な水



勝野の町並み

城の遺構で、琵琶湖周辺のほとんどの内湖がなくなっている現在においては、大変貴重な文化財であると評価されました。

大溝城築城と同時に形成され始めた勝野の城下町は、江戸時代から近代にかけて多くの職人や商人でにぎわっていました。勝野の町並みは、現在にまで当時の水路や建物を伝えています。これらも城下に住む人々の生活が長年かけて作り上げた貴重な文化的景観であると認められました。

文化財課

☎(32) 4467

重要文化的景観「大溝の水辺景観」 選定記念講演・見学会

(会場) 高島公民館および現地

今回選定された「大溝の水辺景観」の価値、選定のポイントを市民の皆さんに報告し、現地を見学する記念行事を開催します。

▼時 間 13時～15時30分

▼講 演 「滋賀県の重要文化的景観と“大溝の水辺景観”」

(講師) 大沼芳幸氏 (滋賀県文化財保護協会次長)

▼見学会 びれっじ1号館、大溝陣屋総門内部等を見学します。

★参加を希望される方は、事前に文化財課へご連絡ください。

編集 雑感

いよいよ12月。衆議院議員総選挙が重なり、いつにも増して忙しく、慌ただしい年末になりそうです。先月は、市内各地で文化祭をはじめ、多くの催しが開催されました。市民の皆さんが自ら立ち上がり、「地域を盛り上げ、魅力を発信して行こう」と実践される取り組みには、いつもながら大変勇気づけられ、感動します。私も微力ながら、皆さんと一緒にまちの活性を考え、行動できるように努力せねば。一年を振り返り、反省する今日この頃です。(Y)

12/13 土



広報たかしま

平成26年

12

月号
No.179

発行▼高島市

編集▼政策部秘書広報課

〒500-1103 滋賀県高島市新旭町北畑5の5番地

☎0740(25)8000(代)
http://www.city.takashima.lg.jp
✉t.info@city.takashima.lg.jp

裏の湖

乙女ヶ池

天平宝字8年（764年）、謀反を起こして敗れた太政大臣藤原仲麻呂（恵美押勝）は、越前国（福井県）へ逃れようとする途中、勝野の鬼江で捕えられて処刑されました。この時、仲麻呂の一族郎党34人も鬼江で処刑されたと伝えられます。「鬼江」の地名は残っていませんが、おそらく現在の高島市勝野に所在する乙女ヶ池付近を指していると考えられます。

乙女ヶ池の名は、昭和28年（1953年）から数年間、この場所で淡水真珠の養殖業が営まれた頃から、使われるようになったといわれています。

大溝藩の地誌「鴻溝録」によれば、乙女ヶ池の名称は「洞海」であったとされます。また、昭和30年代頃まで、人々は琵琶湖を「ウミ」と呼ぶ一方で、内湖のことは「ウツウミ」あるいは「セドウミ」と呼んでいました。「セド」も「裏側」を意味する言葉で、表の琵琶湖に対して内湖は裏口という意識がもたれていたようです。



乙女ヶ池

このような意識は、生活に関わる水の利用にもよく表れていました。琵琶湖の水は毎日顔を洗った

り、米を研いだり、きれいな水として使われました。一方、内湖は周囲の水田からの農業排水や生活排水が流れ込む、溜まり水として機能していました。排水が集められた内湖では水草が繁殖し、畑の肥料として、または乾燥を防ぐためにも使われていました。毎年7月になると、伸びた藻をはさみ竹や備中鍬などで引っ張ってねじり取り、田船で運んで生葉のまま畑の畝に置かれました。また、冬場になると内湖の藻と泥と一緒に取り、畑地へ入れることも行われていたそうです。水草の他にも、内湖にはマコモと呼ばれる植物が繁殖し、牛の飼料として利用されていました。このように内湖から得た肥料などを直接畑に運び込むため、あるいは田畑の収穫物を集落まで運搬するために、内湖に接した家では必ず田船を一艘持っていて、陸地を運ぶ大八車やリヤカーなどは使われなかったそうです。

また、谷水だけでは不足する場合の補助水源として、タニシ（竜尾車）と呼ばれる木製の手回しポンプを用いて内湖から水を汲み上げ、耕作に利用することも行われていました。

このように打下の集落をはじめ、琵琶湖岸で暮らす人々にとって、裏の湖（内湖）は琵琶湖と同じくらい生活に欠かせない、大切な存在だったのです。

文化財課
☎（32） 4467



琵琶湖と乙女ヶ池（遠景）

4月から広報担当になったMです。よろしくお願いします。今年のGWは土日祝日が重なり、大型連休となりましたが、皆さんはどう過ごされたでしょうか。市内でも各地域でお祭りやイベントなどが数多く行われ、私も安曇川町四津川へ初めて取材に行きました。今まで知らなかった高島市の素晴らしいところを、皆さんにお伝えできればと思っています。色んな場所へ足を運び、新しい何かを発見できたら、こんな素晴らしいことはありませんね。（M）



日本遺産 初の認定

「琵琶湖とその水辺景観」と

朽木小川の「思子淵神社」

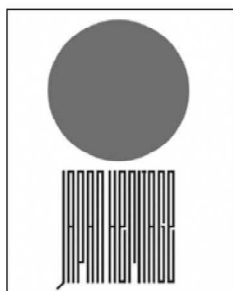
日本遺産

皆さんは、「日本遺産 (Japan Heritage)」をご存じでしょうか。

これは、地域に点在する有形・無形の文化財や伝承などの歴史的な特色を題材にしたストーリーを「日本遺産」として国が認定する名称とそのロゴマークです。「日本版の世界遺産」として認定をすることで観光客誘致や地域活性化を図ることが目的で、今年新たに創設された制度です。

初の認定には、全国から18件のストーリーが選ばれ、その中の一つとして滋賀県の琵琶湖の水と人々が織りなす文化を集めた「琵琶湖とその水辺景観」が、今年4月に認定されました。このテーマを構成する文化財として、延暦寺、日吉大社をはじめとする社寺、沖島、

伊吹山などの自然景観や五箇荘や醒井宿の建造物群、そして、ふなずしに代表される食文化やエリ、ヤナなどの伝統漁法があげられています。高島市からは「近江の厳島」と称される白鬚神社や、水との生活が調和した景観（海津・西浜・知内の水辺景観、針江・霜降の水辺景観、大溝の水辺景観）のほか、安曇川流域の筏乗りを魔物から守る「シコブチ信仰」が入るなど、水との関わりがアピールされています。



日本遺産 (Japan Heritage) のロゴマーク

思子淵神社

そのシコブチ神を祀る社は、安曇川水系を中心に15か所存在しています。このうち、朽木小川所在の「思子淵神社」は、ひとつの建物中に本殿、蔵王権現社、熊野社の3社が納められ、このうちのひとつ蔵王権現社は残された板札の年号から、応安4年（1371年）に建築されたことが分かります。

他の2社も建築様式等から同年代のものと考えられ、14世紀後半（室町時代前期）の社殿を3棟一体に良好に残す極めて貴重な建造物であるといえます。加えて、安曇川を中心に独自の発展を遂げた「シコブチ信仰」の形態を知り得る重要な社であることから、今年5月に国の重要文化財になることが決まりました。

これから2020年の東京オリンピック・パラリンピックまでに100件程が日本遺産に認定される予定です。日本遺産認定をきっかけに、地域の「宝」に光があたり、思子淵神社のように地域で大切に守り継がれてきた歴史遺産が、ひ

とつでも多く未来に継承されることが望まれます。

問文化財課 ☎(32) 4467



【写真】思子淵神社 3棟
蔵王権現社（左奥）、本殿（中央）、熊野社（右手前）

編集感

最近、「仕込み女子」が増えているらしい。発酵食品を手作りする女性のことを言うようで、「育てる食」が女性の心をとらえていると新聞にはあった。「発酵のまち」を称する当市にとっては大変興味深い。まずは試しにと、私も、「仕込み女子」ならぬ「仕込みおじさん」に扮して、ぬか漬けに挑戦することとした。お世話が大変だが、その成長が気になって仕方がない。まさにペットか、子どもかという感覚に近い。どんな風味に成長していくのか。毎日、容器を覗き込むことが日課となった。「育てる食」を育ててきた高島市。みんなの手で可能性を育てていきたい。(Y)

